

# 財布を盗られた!

—妄想・認識の違い

認知症  
しち-はち-きゅう  
789  
みんなであそんで  
試して  
学んで

財布を盗られた!



認太郎…主人公 (認知症)



認太…息子

知子…嫁



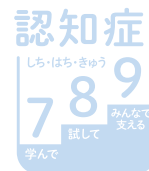
認左衛門  
…認太郎一家のご先祖  
守り神、お助けマン



\*いつもうまくいくわけではありません。

# 財布を盗られた!

—妄想・認識の違い



中核症状 (必ず現れる症状): **短期記憶障害**

行動・心理症状 (人により出方が異なる): **物盗られ妄想**

このケースのポイント

記憶障害 (すぐに忘れしまう) によって財布を置き忘れてしまい、「見当たらない、でも自分の記憶障害を認めたくない」となれば、結論として「誰かが盗った」となってしまいます。また、認知機能の低下によって、周囲の人の対応やひそひそ話に対して、うまく状況を認識できず誤解して「自分をのけ者にしている」「悪口を言っている」ととらえて、暴言・暴力などの行為に発展してしまうことがあります。

「あなたが盗ったんだろう」と言われれば、介護している人は大変なショックを受けます。思わず「私じゃないわよ!」「自分でなくしたんでしょ!」と反論したくなる気持ちもわかりますが、本人は本当に盗まれたと思っています。まずはぐっとこらえて、肯定的な対応を試みてください。

どうすればいい?

## 対応法 ①

盗られたことを否定せず、一緒に探しましょう。見つけたら、本人が見つけられるように誘導します。



## 対応法 ②

「すでに食べてしまったリンゴ」など、絶対にないとわかっていても、探す姿勢を見せる事が大事です。



## 対応法 ③

主治医に相談しましょう。体調変化 (風邪、便秘、脱水等) によって症状が出ている可能性があります。



認知症における被害妄想の背景には、記憶障害があり、くわえて不安や孤独、尊厳が傷つけられたといった感情があります。置き忘れたのに「誰かが盗った」、誤解なのに「のけ者にされた」といった、自分を安全な立場に置いての「被害を受けている」という訴えが被害妄想であり、それが暴言・暴力などの行為を引き起こすこととなります。

対応としては、非現実的な訴えをしても否定せず、まず耳を傾けることが大切です。本人が求めているのは、事態への表面的な賛同や具体的なアドバイスではなく、本人の置かれた状況への理解や、感情から発するメッセージを受け止めてくれることです。

とはいえ、一人きりでそれらに対応するのは大変な心労を伴います。できるだけ早い段階で、信頼できる機関や相手 (ケアマネジャーや地域包括支援センター職員、家族会など) に相談し、状況を理解してくれる人を必ずつくってください。

— 上甲医院 上甲 宏 (もの忘れ相談医)

医師からのアドバイス

